

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス エーる		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 10日 ～ 令和 7 年 1 月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 10日 ～ 令和 7年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名 (回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動の豊かさ ○同年齢、異年齢を組み合わせた集団を作って活動を広げることができる。 ○様々な経験を持つ支援員の強みを活かした活動の設定。 (音楽・芸術・ダンス・創作活動など)	異年齢を活かした支援 活動内容によって年齢を分けたり、異年齢での活動にしたりすることで、より子どもたちの目標にあった活動が組めるようになってきている。	サークル活動の実施 運動や創作、音楽など子どもたちが楽しみたいことを自由に楽しめるサークル活動の時間を設けていく。
2	様々なつながりを大切にした支援 ○法人の大人対象の事業所を活用し、高校生に対しての大人へのステップにつながる支援ができるようになる。	社会見学 活動の中に社会見学の機会を持ち、より子どもたちの将来に繋がるような支援を行っている。 地域交流 ○地域の公園に行くなど地域資源の活用と同時に交流の機会としている。 ○ゴミ拾いなどを通じて、事業所を知っていただく機会を持っている。	実習・先輩の話を聞く機会を持つ 就職した先輩の話や、活動・就業の見学を、本人だけでなく、家族にも参加してもらえるように設定し、家族も見通しを持てたり、本人や地域とのつながりも持てるような支援をしていく。
3	意思決定支援 ○主に中高生を対象に「自分で考えてみる」「自分で決める」を継続して支援している。 ○中高生のお手本を見て小学生も同じようにやってみようとして模倣している様子がある。	活動の選択 ○運動や認知活動の中でもバリエーションを持たせ、自分のしたいことを自由に選択できる場面を設定している。 ○活動に入れない場合は「何をするか」を自分で考えて支援者に伝えるなど、変更や代替を模索する機会を作っている。	自分の願いが叶う支援 ○活動でやってみたいことや行ってみたい場所、気になることなど利用している子どもたちの声に耳を傾け、自分の願いが叶う場所となるように、日々の子どもの言葉や行動に耳を傾ける。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関との連携	○利用されている子どもたちの学校や関係する機関が複数になっていることで、なかなか関係機関連携が進めていけない。 ○優先度の高い人は定期的に行われているが、それ以外は連携の機会が少ない。	○自ら積極的に機関連携を行っていく ○相談事業所の担当者会議など機会を通じて連携の必要性を伝えていく。
2	家族とのつながり・家族同士のつながり	○複数の学校を利用されていたり、子どもたちが異年齢であったりしているため、会話が弾まないのではないかと躊躇している。 ○一人の子どもが複数の放課後等デイサービスを利用している状況で繋がりが密になりにくい。	○子どもの活動の発表やお祭りなどの機会を設け、子どもたちを通じて家族同士のつながりを作っていきたいと考えている。 ○独自のアンケート調査を実施し、家族の知りたい情報や抱える悩みなどを分析し、研修会や懇話会を開く ○ペアレントメンターのお知らせをする。
3			